

日本語指導に係る 個別の指導計画

学校名	
ふりがな	
本人氏名	

学年・組等	保護者等確認欄	
	令和 年 月 日	印
	令和 年 月 日	印
	令和 年 月 日	印
	令和 年 月 日	印

年度	校長印	担任印
令和 年度		
令和 年度		
令和 年度		
令和 年度		

日本語能力に関する実態把握チェックシート

学年・組等	ふりがな	
	氏 名	

学校名	
記入日	令和 年 月 日
実施者	

		1	2	3	4	値
		難しい	できることが少ない	できることが多い	いつでもできる	
(1～4の該当する箇所に「○」を入力する)						
A 話す	① 状況や必要に応じて、ある程度の会話を行うことができる。					0
	② 文の形式で話し、ある程度の連文を使うことができる。					0
	③ 文法的に誤用の少ない話し方ができる。					0
	④ 日常的な語彙が使える。					0
	⑤ 自然な発音で、流ちょうに話すことができる。					0
	⑥ 聞かれた質問に、ある程度答えることができる。					0

		1	2	3	4	値
		難しい	できることが少ない	できることが多い	いつでもできる	
(1～4の該当する箇所に「○」を入力する)						
B 読む	① やさしい内容の読み物を読んで、大まかに理解できる。					0
	② 読み物を理解するために、予測や推測、関連付けなどができる。					0
	③ 文節や単語に区切りながら、音読を行うことができる。					0
	④ やさしい語彙や漢字を理解することができる。					0
	⑤ やさしい内容の読み物を読む習慣がある。					0

		1	2	3	4	値
		難しい	できることが少ない	できることが多い	いつでもできる	
(1～4の該当する箇所に「○」を入力する)						
C 書く	① テーマに沿った作文が書ける。					0
	② 文と文をつなげた文章を書くことができる。					0
	③ 意味の通じる文を書くことができる。					0
	④ 日常の語彙を使って文を書くことができる。					0
	⑤ 表記上の誤用が少ない文を書くことができる。					0
	⑥ 書くことに関する課題に自分から取り組むことができる。					0

		1	2	3	4	値
		難しい	できることが少ない	できることが多い	いつでもできる	
(1～4の該当する箇所に「○」を入力する)						
D 聞く	① 教師の話を聴いて、内容を大まかに理解することができる。					0
	② 教師の話を集中して聴き、授業に参加することができる。					0
	③ 身近な語彙や表現を、大まかに理解することができる。					0

A	B	C	D
話す	読む	書く	聞く
0.0	0.0	0.0	0.0

計
0.00

日本語指導に係る個別の指導計画
【生徒に関する記録】

		ふりがな				
		氏 名 (通称)				
住所 連絡先	〒 TEL	生年月日				
		入国年月日				
		入学(転入) 年月日				
ふりがな				国籍等		
保護者等氏名 (通称)		続柄 ()		家族構成		
本人の 様子	家庭内・ 地域での 使用言語					
	生育歴・学習歴					
	得意な教科や 得意なこと					
	苦手な教科や 苦手なこと					
	実態把握 チェックの結果	(評価値)	A 話す	B 読む	C 書く	D 聞く
進路 希望・ 願い	本人	[現 在]				
		[将 来]				
	保護者等	[現 在]				
		[将 来]				
宗教・文化上の 配慮事項等						
学校 内外 での 支援 状況	支援者・機関名		支援の役割・方針		所見等	

日本語指導に係る個別の指導計画 【指導に関する記録(日本語指導)】					ふりがな								
					氏 名								
学校・学科		年度	令和 年度	学年・組		担任							
年間指導目標													
指導計画													
日本語指導等の年間指導計画	月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
	(日本語指導内容)												
	教科(教科の取り出し単位)指導												
	その他のリア活動												
指導者													
指導時数													
指導場所													
上記以外の指導等													
指導内容・方法に関する評価及び学習状況の評価等													

日本語指導に係る個別の指導計画
【指導に関する記録(各教科配慮事項)】

				ふりがな			
				氏 名			
学校・学科		年度	令和 年度	学年・組		担任	

教科等	配慮事項	取組の様子
国語		
地理歴史		
公民		
数学		
理科		
保健体育		
芸術		
外国語		
家庭		
情報		
総合的な 探究の時間		
特別活動		
学校生活 全体		

※各学校の教育課程や学校の実態に合わせ、適宜、教科欄を増減させて作成する。

日本語能力に関する実態把握チェックシート

記入例

学年・組等	ふりがな	
1年〇組	氏 名	〇〇〇〇

学校名	
記入日	令和 年 月 日
実施者	〇〇〇〇

		1	2	3	4	値
		難しい	できることが少ない	できることが多い	いつでもできる	
(1～4の該当する箇所に「〇」を入力する)						
A 話す	① 状況や必要に応じて、ある程度の会話を行うことができる。	〇				1
	② 文の形式で話し、ある程度の連文を使うことができる。		〇			2
	③ 文法的に誤用の少ない話し方ができる。		〇			2
	④ 日常的な語彙が使える。			〇		3
	⑤ 自然な発音で、流ちょうに話すことができる。			〇		3
	⑥ 聞かれた質問に、ある程度答えることができる。			〇		3

		1	2	3	4	値
		難しい	できることが少ない	できることが多い	いつでもできる	
(1～4の該当する箇所に「〇」を入力する)						
B 読む	① やさしい内容の読み物を読んで、大まかに理解できる。			〇		3
	② 読み物を理解するために、予測や推測、関連付けなどができる。		〇			2
	③ 文節や単語に区切りながら、音読を行うことができる。			〇		3
	④ やさしい語彙や漢字を理解することができる。			〇		3
	⑤ やさしい内容の読み物を読む習慣がある。				〇	4

		1	2	3	4	値
		難しい	できることが少ない	できることが多い	いつでもできる	
(1～4の該当する箇所に「〇」を入力する)						
C 書く	① テーマに沿った作文が書ける。			〇		3
	② 文と文をつなげた文章を書くことができる。		〇			2
	③ 意味の通じる文を書くことができる。			〇		3
	④ 日常の語彙を使って文を書くことができる。		〇			2
	⑤ 表記上の誤用が少ない文を書くことができる。		〇			2
	⑥ 書くことに関する課題に自分から取り組むことができる。		〇			2

		1	2	3	4	値
		難しい	できることが少ない	できることが多い	いつでもできる	
(1～4の該当する箇所に「〇」を入力する)						
D 聞く	① 教師の話を聴いて、内容を大まかに理解することができる。		〇			2
	② 教師の話を集中して聴き、授業に参加することができる。		〇			2
	③ 身近な語彙や表現を、大まかに理解することができる。		〇			2

A 話す	B 読む	C 書く	D 聞く
2.3	3.0	2.3	2.0

計
2.5

日本語指導に係る個別の指導計画
【生徒に関する記録】

記入例

		ふりがな	○○○ ○○○						
		氏 名 (通称)	○○ ○○ (○○○ ○○○)						
住所 連絡先	〒○○○-○○○	生年月日	20○○年○○月○○日						
	○○○市○○町○○○ ○○○	入国年月日	20○○年○○月○○日						
	TEL ○○○-○○-○○○	入学(転編入) 年月日	20○○年○○月○○日(編入学)						
ふりがな		○○○ ○○○		国籍等		○○○○			
保護者等氏名 (通称)		○○ ○○ (○○○ ○○○)		続柄 (父)		家族構成 ・父と本人、弟の3人家族 ・父は母国にいる			
本人の 様子	家庭内・ 地域での 使用言語	家族内では、○○語を用いている。 地域では、○○語が用いられるコミュニティにあり、生活において日本語を使う場面は少ない。							
	生育歴・学習歴	・日本語の支援や配慮事項を考えるにあたって、これまでの生育環境や学習状況を把握しておく。							
	得意な教科や 得意なこと	・好きな教科や得意なこと(強み)を把握し、学習の支援に生かす。							
	苦手な教科や 苦手なこと								
	実態把握 チェックの結果	(評価値)	A 話す	2.3	B 読む	3.0	C 書く	2.3	D 聞く
進路 希望・ 願い	本 人	[現 在]							
		[将 来]	・本人や保護者が考える進路希望・願いを把握し、日本語指導に向けた本人の目的意識を高める。本人及び						
	保護者等	[現 在]							
		[将 来]							
宗教・文化上の 配慮事項等		・わかる範囲内で記載し、関係する教職員で共有する。							
学校 内外 での 支援 状況	支援者・機関名		支援の役割・方針			所見等			
	・自治体やNPO法人等からの支援を受けている場合は記載しておく。								

日本語指導に係る個別の指導計画
【指導に関する記録(日本語指導)】

記入例

ふりがな	○○○ ○○○						
氏名	○○ ○○						
学校・学科	○○高校 ○○科	年度	令和○年度	学年・組	1年A組	担任	○○ ○○

年間指導目標	①日本語でのコミュニケーション力を高め、周囲と関係を築き、特別活動等に参加できるようにする。 ②支援を受けながら、授業に関連する内容を調べたり、多様な表現方法で発表したりできるようにする。 ③自分の出身地域や言語文化についてとらえ直し、自分の将来像を具体的にイメージできるようにする。
--------	---

指導計画													
日本語指導等の年間指導計画	月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
	(日本語指導)	日本語基礎・技能別日本語											
	教科の取り出し指導	「公共」 ・青年期 「保健」 ・健康の捉え方			「公共」 ・国際社会 「保健」 ・喫煙、飲酒、薬物			「公共」 ・職業と社会参加 「保健」 ・心の健康とストレス			「公共」 ・現代の経済社会 「保健」 ・現代の感染症		
	その他のリア活動教育	「学校生活と自分」 ・部活動、委員会活動に参加する。 ・自分のことを説明する。 ・高校でやりたいことを考える。			「他者や校外との関わり」 ・学校行事を通して、級友と交流を深める。 ・校外のイベントに参加する。			「自分と進路」 ・進路を考え、選択科目を決める。 ・自分の興味や関心について考える。			「進級、卒業に向けて」 ・入学後の生活や意識の変化を考える。 ・後輩に向けて、多言語版高校生活の手引きを作成する。		

指導者	○○ ○○
-----	-------

指導時数	放課後：週2時間×35週(火・金)、取り出し：週3時間×35週(公共、保健)
------	--

指導場所	放課後：生徒相談室
------	-----------

上記以外の指導等	「現代の国語」は、週2時間在校学級でTT指導
----------	------------------------

指導内容・方法に関する評価及び学習状況の評価等	・学習意欲はあるが、教科に関する未習事項が多く、授業内容に対応しきれていない。 ・関心のある分野であれば、ある程度まとまった文章を理解できるようになった。 ・表現することに苦手意識があるようなので、各教科等において発言や作文がしやすいような支援方法を検討する必要がある。
-------------------------	--

日本語指導に係る個別の指導計画
【指導に関する記録(各教科配慮事項)】

記入例

ふりがな		〇〇 〇〇	
氏 名		〇〇 〇〇	
学校・学科	〇〇高校 〇〇科	年度	令和〇年度
学年・組	1年A組	担任	〇〇 〇〇

教科等	配慮事項	取組の様子
国語		
地理歴史	・地理歴史に関わる専門用語については、事前にその意味を提示したり、わからなかった用語を生徒にまとめさせ、後で確認できるよう指導する。	・専門用語の意味を理解した上で授業を受けることで、意欲や理解度が高まっている。
公民	・「困難さの状態」に対する「指導上の工夫の意図」+「手立て」を記入。	・取組の様子を簡潔に記入。
数学	・困難さに改善がみられたり、手立ての修正が必	・有効だった点、改善が必要だった点が記載されると、引継ぎ時に役立つ。
理科		
保健体育		
芸術	・生徒の実態に合わせて、必要な教科等の欄を記入する。 ・空欄の方が多くなることもある。 ・各教科担当が記入できると、生徒の実態を多面的に捉えることができる。	
外国語		
家庭		
情報		
総合的な探究の時間		
特別活動		
学校生活全体		